

繊維・アパレル部門

3面

●大東紡織連結

減収も赤字幅縮小

繊維・アパレル事業の衣料部門は、紳士服販売事業と素材・デザイン提案型OEM（相手先ブランドによる生産）事業から撤退したため前期比で大幅な減収となった。ユニフォーム部門は、民需の大口受注などの効果で増収となった。利益面では構造改革により販売・管理費が減ったものの、期末に5000万円の貸倒引当金などを積み増した。その結果、減収、赤字幅大幅縮小となった。商業施設事業は「サントムーン柿田川」が堅調に推移したが、リニューアル工事の影響もあり減収減益となった。今期は繊維・アパレル事業で売上高17億4500万円、営業利益1000万円と減収、黒字化を見込む。

大東紡織、2カ年計画を策定

次の成長へ準備

財務強化しプロパー事業固め

2面

大東紡織は、17年3月期を初年度とする2カ年の中期経営計画を策定した。前中計期間中は円安進行や消費税の影響が想定を上回り、紳士服販売事業からの撤退を柱とする繊維・アパレル事業の構造改革を行った。その一方で商業施設サントムーン柿田川が好調に推移したため「営業利益率6%以上」「自己資本比率20%以上」を達成した。新中計では国内外の経済不透明感が増しているため「財務体

質強化」「プロパー事業の強固な基盤作り」「利益の底上げ」を進め、次の成長のための準備期間と位置付ける。繊維・アパレル事業では、官需制服やニット事業の維持、中国現地法人による中国OEM（相手先ブランドによる生産）事業の強化を図る。商業施設ではサントムーン柿田川の競争優位性を固める。最終年の18年3月期には繊維事業で売上高19億円（16年3月期は22億3700万円）、営業

利益2000万円（4900万円の赤字）にする。連結業績も売上高52億1000万円（54億700万円）、営業利益4億8000万円（3億7800万円）を目指す。

9月から社名を変更

タイトウボウに

大東紡織は13日の取締役会で社名をタイトウボウに変更することを決めた。創立120周年を機に、非繊維関連事業が過半となっている事業実態を踏まえカタカナ表記に改める。6月24日の株主総会での承認後、9月1日に変更する。

大東紡織は13日の取締役会で監査等委員会設置会社に移行することを決めた。これに伴い定款の一部を変更する。